

承認	照査	作成

議 事 録

<p>【参加者】 利用者ご家族 1名 委員（地域住民1）1名 委員(行政) 1名 委員（社会福祉協議会）1名 委員（地域包括支援センター）1名 事務局3名 事務局1（センター長） 事務局2（管理者／係長） 事務局3（介護職員兼生活相談員／副主任）</p> <p>【欠席】 委員（地域住民1）1名</p>	<p>会議名：令和6年度 第1回 運営推進会議</p> <p>開催日：令和6年8月30日（金）</p> <p>時間：14時00分～15時00分</p> <p>資料：有 資料(活動状況報告、事故及びヒヤリハット事故及び改善状況の報告)</p>
<p>議事進行：事務局2 書記：事務局2 会場：2階相談室</p>	
<p>1、挨拶(事務局2) 《委員のご紹介(事務局2より)》 委員変更について 委員(中部包括)、委員(行政) 《職員紹介》 事務局1、事務局2、事務局3</p> <p>・事業概要、介護保険所業の運営及び活動状況について資料に添って報告を行う。</p>	
<p>【施設の概要やご利用者の属性など】 事務局(事務局3) 平均介護度は2月から7月までの間に2.00と軽度化しています。7月の実績では、要支援1・2が2名、要介護1が18名、要介護2が8名、要介護3が7名、要介護4が2名、要介護5が1名です。前年同月の平均介護度は2.65であったため、大幅な軽度化が見られます。</p> <p>・ 事務局(事務局2) 令和6年2月と3月に稼働率が低下した理由として、医療ニーズが高く身体介護が必要な利用者が利用終了となったことが挙げられます。これらの利用者の利用終了に伴い、空いた枠に活動量の多いプログラムに適した利用者を積極的に受け入れた結果、稼働率は7月末時点で95%まで回復した。利用者の年齢層は広範で、若年性認知症の方が2名、最高齢は99歳の女性です。自立度の高いプログラムを増やし、車椅子利用者は1名に減少しました。地域密着の運営を進め、団塊世代の新築住宅が多い東城陽中圏域からの利用者が増加しています。半数以上の利用者がこの地域から来ており、ケアマネジャーとの連携も強化しています。</p>	
<p>委 員(地域住民) 活動的なプログラムの継続とケアマネジャーとの連携が重要ですね。</p>	
<p>事務局(事務局2) 若年性認知症の利用者の活動内容についてですが、1人の女性利用者はデイサービスのスタッフと利用者の間でサポート役を果たしています。具体的には、お食事の準備や片付け、調理、おやつ作りなどを手伝い、テーブル拭きや皿洗いなど、職員が以前行っていた業務を職員の見守りのもと活動に取り入れています。ご利用のペースに合わせて活動を調整しています。もう1人の男性利用者は主に傾聴の役割を担っており、他の利用者の話(出身地等の話題)を聞くことでサポートしておられます。今後は、車椅子の空気入れなどの業務も取り入れ、より多くの活動に参加してもらうことを検討しています。このように、利用者それぞれの能力や状態に応じた役割を見つけ、デイサービス内での活動を充実させています。</p>	
<p>委 員(地域包括支援センター) 私は以前、地域包括支援センターにて認知症に関する仕事をしており、若年性認知症の方々について深く関わってきました。その経験から、若年性認知症の方が利用できるデイサービスが少ない中で、2人の方が定着していることは非常に珍しいと感じています。これはデイサービスの大きな特色であり、強みだと思います。 また、自立度の高い活動プログラムを今後も続けていくことが重要だと考えています。ケアマネジャーとの連携を深めることで、他の施設と差別化しやすく、利用者のニーズに応えやすくなると思います。</p>	
<p>事務局(事務局2) 委 員(社会福祉協議会)の地域、久世校区ではどのような状況ですか？</p>	
<p>委 員(社会福祉協議会) 我々の地域(久世校区)はほとんどが高齢世帯であり、私自身も間もなく後期高齢者になる。この地域では、1人暮らしの高齢者が多く見られます。また、私が司会を務めるサロンでは、ほとんどが元気な高齢者の方々が集まっているが、そのため、元気なお年寄りが集まる</p>	

サロンとなっている。

【利用時間及び年齢利用状況、中学校圏域別利用状況について】

事務局(事務局3)

登録利用者の半数以上は、当センターが位置する東城陽中圏域や隣接する城陽中圏域からの方です。南城陽中圏域の利用者は、同法人のヴィラ城陽の入居者となっている。

事務局(事務局2)

城陽市の高齢者世帯の状況はどうですか？

委員(行政)

城陽市内で高齢者の数は増加しています。具体的には、後期高齢者の比率が高く、現在は33.89%に達しています。この傾向は今後も続く見込みです。特に令和2年には、前期高齢者と後期高齢者の比率が逆転しました。

委員(社会福祉協議会)

2025年問題が現実味を帯びてきている。1963年に城陽団地など東城陽中圏域に新築が建てられた。それが今高齢者の独居世帯が増えている。その方々がマンションに引っ越しされる方が多い。しかし、若い世代も増えている。大きな家を解体して、3件程の家が建てられている。そこに若い世代の方が住むようになっている。

事務局(事務局2)

2025年問題が現実味を帯びてきていると述べ、その付近の家は高台にあり階段の上り下りが多い地域ですね。また、旧街道沿いに新しく住宅が増えていることなど、地域の高齢者の居場所が少ない事について今後考えていかないといけない。

特に、地域には老人福祉センター等もあるが、その地域の高齢者の居場所をどう確保していくかがこの地域の課題と感じる。

【新型コロナウイルス対応に関する対応】

事務局(事務局3)

令和5年5月8日より、新型コロナウイルスは5類感染症に位置付けられました。当センターでは、体温の基準やマスク着用の協力を引き続きお願いしています。物品の消毒や利用者の体調確認も続けています。感染者が出た場合も、状況に応じて対応し、営業停止することなく運営している。

【認知症対応型広報誌「かけはし」】

事務局(事務局2)

令和3年4月より開始した「かけはし」は、横型から縦型にリニューアルした。これは、タブレットやパソコンでの表示に適した縦型に合わせるための変更です。インスタグラムでの情報発信と紙媒体の発行を継続している。「東部だより」は1階の内容が中心だが、今後の楽しみを持てる内容とし、「かけはし」はデイサービスでの様子を知りたいご家族が対象となっている事から、1ヶ月の様子を写真付きで掲載しています。編集作業の負担軽減のために一般的な編集アプリを活用している。令和5年7月からは、利用者が独自のスタンプを押す工程が定着している。

【役割を持てるアクティビティの充実】

事務局(事務局2)

自立度の高い方の向上に伴い、既存のコアアクティビティを継続しつつ、おやつ作りを取り入れることにしました。おやつ作りを提案したのは、ご利用者さんからの相談がきっかけで、家で料理を作っている方が増えているが、調味料の使い方を間違えることがあるとの話がありました。その方が料理の能力を持っていることから、ここでもできないかと考えました。ただ、衛生管理の問題で毎日は難しいため、週に3回から4回、おやつ作りの為の食材の買い物からご利用者と共に実施しています。

また、ひまわりの話も触れましたが、SDGsの取り組みの一環として、福島ひまわり里親プロジェクトに今年度も参加しています。

【家族懇談会】

事務局(事務局2)

令和5年度は全4回開催し、最終回は「認知症の進行」「看取り」「排泄の介助方法」をテーマに実施しました。今年度も6月から昨年度と同じ頻度で開催している。家族とスタッフとの情報共有と意見交換の場として機能している。排泄の介助方法についての悩みが多く、職員による実演を動画で見てもらい、具体的な対応方法について説明した。今年度も6月に初回を開催し、次回は9月に予定している。この家族懇談会は非常に重要だと捉えている。継続していくことで、ご家族同士でのコミュニティが形成されつつあります。参加者同士が挨拶を交わしたり、同じ思いを共有することで安心感を得ているようです。新しく参加されているご家族からは認知症の方の介護を長年経験されてこられている方の言葉や知識に勇気づけられるとの声もあります。

また、8月には城陽市の連続講座の講師として参加させていただき、認知症の方との関わり方について講義をしましたが、家でのケアと仕事でのケアには乖離があると改めて感じました。専門職として寄り添うことの難しさを痛感し、もっと上手に伝えられればよかったと振り返っているところ です。

委員(家族)

家族が認知症になった際、最初は受け入れ難い部分がありましたが、受け入れることで楽になる部分もあると思います。ただ、仕事でケアしている人とは違う現実があり、その違いを理解するのが難しい場合もありますね。

特に、男性の家族は、認知症の配偶者に対してどう対応すべきか戸惑うことが多いようです。受け入れ難さがある場合も多いです。

これまで奥さんにしてもらった側だったため、いざ奥さんが認知症になると、自分が世話をする立場になることを受け入れがたく感じている。また、認知症の妻とのコミュニケーションがうまくいかず、混乱が生じやすいように感じる。

自分たちは24時間365日、在宅で介護しているため、仕事として介護をしている人々とは状況が大きく異なるが、何かヒントを得たいと思おられると思います。しかし介護者が認知症を受け入れない限り、「なぜ自分の親がこうなったのか」や「他の友達は認知症に

なっていないのに」といった疑問や不満が生じ続けるとし、受け入れることが重要だと思う。

事務局（事務局2）
家族懇談会では、参加者が自分の悩みを解決してもらうことを期待して参加されるようですが、同じ思いをお持ちの方々と交流し色々な想いを吐き出せる場としていただけると嬉しく思います。

【SNSインスタグラム情報発信】

事務局（事務局2）
時代の流れに合わせてSNSの活用としてInstagramを開始し今年の8月3日に全国からのフォロワーが2000人を超える結果となっている。毎日掲載することには努力が必要ですが、コメントや反響が励みになっている。もともと、ご利用者ご家族にデイサービスの様子を知っていただけるようにYouTubeを利用していたが、編集が大変だったため、より簡単に更新できるInstagramに移行した。

委員（地域住民1）
関係各位への「かけはし」の発送は何件ですか？10月1日から郵便料金が結構上がるそうなんですよ。もうちょっと回数を減らすとか検討されてはどうか。Instagramっていうのは、一度登録を試みたけど難しくて諦めました。時代ですね。作るのは大変ですね。2000人も登録してくれたらすごいですよね。是非続けてください。

事務局（事務局2）
今、居宅支援事業所や近隣の介護施設を併せて44件に発送しています。Instagramはアカウント登録が必要で、そのためにたどり着けない人がある。6月に行ったアンケートでは、半々の意見があり、紙媒体の方がいいという意見や、子供世代は電子化でも良いという意見がありました。

事務局（事務局1）
Instagramはスマホで見るとちょっと小さくなり、見てもらえない要因になる。ホームページも閲覧数も確認できるが、利用されていない事が課題です。

【地域活動】

事務局（事務局2）
芽生え幼稚園や東部コミュニティセンター（しおり寄贈）、久世小学校（ぞうきん作り）にて地域活動を実施した。「ふくひまプロジェクト」には今年度も参加している。また、陽和苑「高齢者いきいき教室」の講師として参加し事業所の知名度向上や認知症に関する普及啓発活動にも貢献した。今後も地域との連携をさらに強化し、地域活動の質の向上に努める計画です。
前回の運営推進会議にてご提案いただいた「ぞうきん」の寄贈先として、地域の消防団に受け取っていただけることになり、贈呈式が9月30日に消防本部で予定されている。さらに、城陽市立図書館にしおりを置く許可が得られたため、9月に市立図書館にも持参する予定。
認知症サポーター養成講座については、今年度、3名の新しい講師が誕生した。今年度は6月に翔英高校での認知症サポーター講座の授業や9月17日に開催されるアルツハイマー月間のイベントで講師を務める予定です。城陽市高齢介護課によるオリジナルTシャツもあるとの事で啓発活動に意欲を持っている。

委員（行政）
担当者も先日着用していました。当日はよろしくお願ひします。

【内部研修、外部研修について】

事務局（事務局2）
施設内研修ではYouTubeやeラーニングを活用した研修を実施しています。交通安全運転研修やBCP研修も継続して実施予定です。施設外研修としてSNS運用や認知症カフェセミナー、認知症サポーター養成講座に職員を参加させています。特に交通安全に関する研修は、年2回、専門の警察官が講師として招き講習会を開催。最近では、7月25日実施。交通事故の発生件数は、去年の10月1日以降、0件に抑えられており、職員の意識向上が成果として現れている。

【委員会活動、会議について】

事務局（事務局2）
会議のスリム化を図り、月1回の運営会議や月2回の役職者ミーティングを継続しています。業務効率化の取り組みとして、会議のスリム化を進めており、以前は多くの委員会活動があったものの、それを整理して全員が全ての活動に取り組む形にしています。現在は全体会議と各フロアの会議、さらに役職者会議を通じて業務をまとめており、効率が向上している。しかし、個々の職員の意見が反映されにくいとの課題があり、事前にアンケートを取って意見を抽出する取り組みも行っている。アンケートなどの書類関係は全て電子化されており、Googleのアプリを活用して管理されています。新しい取り組みは「まず一度やってみる」志向で進めている。

事務局（事務局1）
現在グループ内でも電子化への取り組みを強化し、ペーパーレス化も毎年20パーセントほど減少している。基本的に内部文書は電子化し、ほとんど紙を使わないようにしている。ただし、年配の職員からは少し不満の声も上がっています。

委員（地域住民）
誰がそのような電子化に向けて準備をされているのですか？

事務局（事務局1）
2事業所の管理者が積極的に電子化に向けて試行錯誤して進めています。

委員(地域住民)

もうね、時代ですから、そう、どんどん進めていくべきですね。

私たち70歳を超えた世代にはしんどいかもしれませんが、40代や50代の娘世代は特に問題ないでしょうし、もっと若い世代はさらに順応しているように思います。

【実習について】

事務局(事務局2)

小学校及び中学校の教諭の普通免許状取得希望者に介護等体験が義務付けに伴い実習生の受け入れを定期的に行っている。

現在、実習指導者研修にも3名の職員の受講中となっている。

【事故及びヒヤリハット事故及び改善状況の報告】

事務局(事務局3)

中度以上の事故は発生していないものの、軽微な事故が4件発生しヒヤリはっと事故がいくつか発生。自立度が高くなり、自発的な行動が増えているため、職員の対応も向上しており、大きな事故は未然に防がれています。

事務局(事務局2)

転倒事故は減少している。自立度が高い方への見守りやケアが不十分であると感じており、職員が「大丈夫だろう」と思い込みがちで、実際には注意が必要な状況が発生している。

具体的には、お風呂でのケアについてのほっと報告(ヒヤリハット)への問題があり、浮き上がるのを止めることができた例があるものの、最終的な見守りが不足していると認識しています。現在、この問題については会議などで周知を図っている。

【防災関連について】

事務局(事務局2)

令和6年7月25日、城陽市消防署立会いのもと、水害を想定した避難訓練および通報訓練を実施しました。約5年ぶりの実施であり、職員・利用者の防災意識向上に繋がりました。

【介護体験実習等の受け入れ】

事務局(事務局2)

福祉教育と後進育成の一環として、令和6年2月から6月にかけて大学生4名の実習を受け入れました。8月以降も実習生の受け入れを予定しています。現在実習指導者研修に3名の職員が参加しています。

【利用者負担減免事業の実施】

事務局(事務局2)

低所得の利用者に対する介護保険サービス利用者負担の減免事業を継続していますが、令和6年7月現在、認知症対応型通所介護事業所における対象者はおられません。

【みんなのカフェとうぶ(認知症カフェ)】

事務局(事務局2)

令和6年4月より、城陽市内で6ヶ所目となる認知症カフェ「みんなのカフェとうぶ」を開設しました。6月からは城陽市認知症カフェ委託事業として運営し、認知症の人とその家族が孤立しないための支援活動を行っています。

活動内容としては、4月にはうたの会、5月には健康体操、6月にもうたの会、7月には相談交流会、8月には手芸と園芸の会が実施されています。参加者は当事者やご家族で、若年層から高齢者まで幅広い世代の参加があります。城陽市認知症初期集中チーム、や同法人のカフェほうおう(常設型認知症カフェ)などと連携し情報共有や協力を行っています。今後は陽和苑さんのお祭りでのカフェの開催も視野に入れていきます。様々な活動を取り入れて認知症の方を基盤として自宅で閉じこもっている方の居場所となるように発展していきたい。

委員(社会福祉協議会)

自治会内での居場所作りとして、サロンを年8回開催している。コロナ5類移行、食事の提供も再開され、参加者数はコンスタントに35人以上で、主に80代以上の方が参加しています。やはり歌が人気ですね。手配も大変ですが…。会場は公民館で開催しています。

沢山参加して欲しいと思っている。だいぶIT化されているお話でしたが、社協が全然IT化されないのが、提案してみようと思います。しかしそのIT化に皆が付いていけるかが大きな課題。そのような講師を招いたりするのも1つかもしいない。

委員(地域住民1)

認知症カフェのPRはどの様にしているのですか？

事務局(事務局2)

室内の会場が大きい場所ではなく3組～4組程が限界であることから、あまり大々的に告知が出来ないのが現状。現在は城陽市認知症初期集中チームとの連携と陽和苑にチラシを置かせて頂いているところ。あとはInstagramやホームページでも公開している。

委員(地域住民1)

認知症カフェの目的やターゲットが明確になるといいですね。認知症の予防の為に参加するのか、認知症の方が参加する場所なのか明確にされるといいのでは。

事務局(事務局2)

ありがとうございます。仰る通りで認知症当事者の方の参加や認知症にならない為に参加されている方もおられます。他の認知症カフェで

したらボランティアで参加されているところもあります。

委員（地域住民1）

東部デイとして何故認知症カフェを立ち上げたのか気になりました。

事務局（事務局1）

カフェの目的は城陽市の傾向として若年性認知症の方の居場所で少ないという課題解決となるようにと立ち上げた。最終的にはカフェから通所介護利用に繋がれば東部デイサービスセンター全体が城陽市の社会資源の1つになるように機能させることを目指しています。

委員（地域住民1）

東部デイが広く知ってもらって、認知症を疑う人達の不安を解消する為の通いの場となるように東部デイが機能すればいいですね。どの様な人をターゲットにするかはポイントですね。

事務局（事務局2）

ケアマネジャーや他の介護関連事業所との紹介も増えてきている。

委員（地域包括支援センター）

今後ともよろしくお願ひします。

事務局（事務局2）

職員の中には『認知症カフェ』について理解出来ていない現状もある為、職員教育も今後は課題となっている。

貴重なご意見ありがとうございます。

本日はお忙し中、ご参加いただきありがとうございました。

なお、議事録を作成後、送付させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

【意見書】

委員（地域住民2）欠席のため意見書の提出の依頼を行ったが、ご都合により提出なしとなる。

目的：	<input checked="" type="checkbox"/> 定例開催	－	<input type="checkbox"/> 臨時開催
決定事項：			
次回の課題：			
次回開催予定日：	令和7年 2月頃	14:00	～15:00
次回開催目的：			